

## ➤ 14日 火曜

### 列王 I

16:29 オムリの子アハブは、ユダの王アサの第三十八年に、イスラエルの王となった。オムリの子アハブはサマリアで二十二年間、イスラエルの王であった。

16:30 オムリの子アハブは、彼以前のだれよりも【主】の目に悪であることを行った。

16:31 彼にとっては、ネバテの子ヤロブアムの罪のうちを歩むことは軽いことであった。それどころか彼は、シドン人の王エテバルの娘イゼベルを妻とし、行ってバルに仕え、それを拝んだ。

16:32 さらに彼は、サマリアに建てたバルの神殿に、バルのために祭壇を築いた。

16:33 アハブはアシェラ像も造った。こうしてアハブは、彼以前の、イスラエルのすべての王たちにもまして、ますますイスラエルの神、【主】の怒りを引き起こすようなことを行った。

16:34 彼の時代に、ベテル人ヒエルがエリコを再建した。彼は、その礎を据えたとき長子アビラムを失い、門を建てたとき末の子セグブを失った。ヌンの子ヨシュアを通して語られた【主】のことばのとおりであった。

アハブという最悪の王がいかに誕生したかが、記されています。それは彼1代だけのことではなく、祖先からの罪と不信仰が連綿と続いているのだとわかります。ヤロブアムに始まった不信仰と反逆はその子孫に受け継がれました。またオムリが王となった経緯も、主の御心というのではなく、単なる力関係であったことがわかります。

エリコはヨシュアが攻め勝った、かつては異教と罪の町でしたが、主はその町を再建するものは呪われると言われました。ヒエルはこれを無視して再建しようとして、その通りに呪われました。それでも



アハブはそこから学ぶことをせず、主に従わないままだったのです。

もしも周囲が神様に十分従っていないなら、それに同化してしまわないで、自分は従う者でありましょう。周りに流されることなく、むしろ周りから主のみわざを見出して、主の御心を知りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

